



## 作付けを再開する被災ほ場での春作業

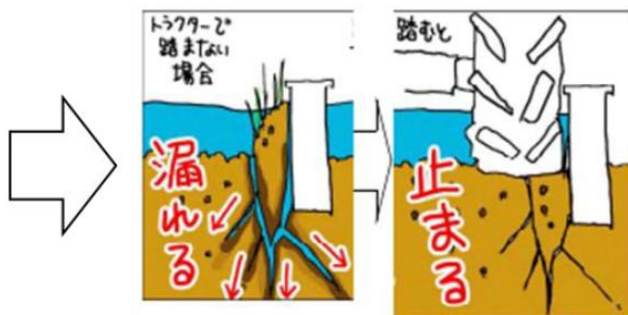
令和6年は、地震の影響で休耕したほ場や、作付けはできたもののほ場内の高低差や漏水による影響で減収したほ場が多くみられました。

7年産の作付けに向けて、春作業でのほ場準備や施肥体系について、以下の点に留意して取り組みましょう。

### 1 作付けを再開するほ場の準備作業について

#### (1) 漏水が懸念される（昨年漏水した）ほ場で作付けする場合

- ① 亀裂からの沈下や崩落等による農作業への支障や事故の恐れがないかを確認しましょう。
- ② 畦塗機で畦を塗り直し、亀裂箇所を耕起した後、トラクターのタイヤ等で複数回踏み固めて漏水を防止しましょう。  
※畦畔は特に漏水しやすいため、亀裂がない場合でも、畦際を周回するなどして踏み固めましょう
- ③ 踏み固めた後、代かきは2回丁寧に実施する等、漏水防止に努めましょう。



(引用：大分県中部振興局資料)

#### (2) 高低差が生じているほ場で作付けする場合

- ① 高低差が10cm以内の場合は、ロータリーによる耕起、ドライブハローによる代かき作業により、できるだけ均平化を図りましょう。

※一般的には、水稻の生育に支障のない農地の高低差は5cm以内とされています。

10cmを超える場合は専用の作業機（レベラー）や重機（ブルドーザ等）による均平作業が必要となります。



レーザーレベラーによる均平作業

- ② 土壌処理除草剤（初期剤、初中期一発剤）を使用する際は、ほ場の高い部分の田面がしっかりと隠れるよう入水した上で施用しましょう。  
(施用後7日間は落水・かけ流しをしない)

### (3) 用水が不足する地域で作付けする場合

ため池や水路の復旧が十分に進んでいない地域では、十分な用水の確保が困難となる可能性があります。代かきから収穫までの作付期間を通した「節水栽培」に、地域全体で取り組みましょう。

< 節水栽培の水管理のポイント >



畦塗り **【浅水代かき】** 田植え 活着 **【浅水管理】** **【原則、入水しない】** 出穂 **【水を溜めない】** 収穫

4～5日ごとの入水で土壌の湿潤状態を保つ（**湛水しない**）



< 浅水代かき時の田面の様子 >

2日程度、土壌に水を馴染ませてから実施  
田面に見える土と水の割合は8：2が目安

#### < 節水栽培のメリット >

用水の使用量を節減できることに加え、**土壌に酸素が十分に行きわたる**ことで下記の効果を期待できます

- ① 無効分げつの抑制
  - ② 根張りの向上
  - ③ 倒伏防止
- >> **収量・品質の向上**

## 2 施肥対策（減肥）

### (1) 1年休耕していたほ場・地力増進作物を作付けしていたほ場

1年休耕していたほ場や、水稻の代わりに地力増進作物（地力増進麦、ソルガム等）を作付けしたほ場では、土壌中の有機物の分解が進んだことで、土壌中の窒素成分が多くなるため、施肥量を減らす必要があります。

倒伏の防止対策として「ゆめみづほ」等の倒伏しにくい品種を作付けすることも有効です。

#### ○基肥一発体系の減肥の目安

基 肥	追 肥
2割程度 減肥	<b>葉色が淡い場合、穂肥を施用</b> < コシヒカリの場合 > 7月中旬(出穂16日前)に葉色が淡い場合、 「有機入り能登穂肥一発」を10～15kg/10a

## 3 水稻を作付けできないほ場への対応について

ため池・水路の復旧工事等で、水稻を作付けできないほ場では、令和8年産からの作付け再開に向けて、地力増進作物の作付けを検討しましょう。

【取組メリット】

- ① 肥料持ちの良い水田に改善される
- ② 雑草の発生を抑え復田を助ける
- ③ 産地交付金2万円/10aの交付を受けられる